

<先生方へ>

各Pでの学校評価計画表の作成ありがとうございました。5月20日(金)、全職員で検討をし共通理解をして、平成22年度の教育活動に当たりたいと思います。自分のP以外の評価項目について事前に見ておいてください。

平成22年度 嬉野市立嬉野小学校

学校評価計画表

1. 学校教育目標		
一人一人の子どもの知・徳・体を磨き、しなやかにたくましく生きる子どもの育成を図る。		
2. 学校経営ビジョン		
めざす学校像	めざす児童生徒像(嬉野スピリッツ)	めざす教師像
(信頼される学校) ○確かで、豊かな学びのある学校 ○明るく礼儀正しい学校 ○一人ひとりのよさが生かされ、安心して通える学校 ○落ち着いた、整頓された学校	(元気いっぱい・やる気いっぱい・笑顔いっぱい) ○元気いっぱい「あいさつ名人」(いつでも、どこでも、だれとでも) ○やる気いっぱい「聞き方名人」(学びは聞くことから) ○笑顔いっぱい「優しいさ名人」(優しい言葉・困った人への寄り添い)	(愛と創造の教師) ○魅力ある授業展開、迫力ある指導を求める教師 ○一人ひとりの個性や能力を見極め、指導に生かす教師 ○一人ひとりを受け止め、保護者と連携し、共に育てる教師

3. 本年度の重点目標	4. 前年度の成果と課題
○確かな学力を育成する。魅力的な学習を作り出す。 ・学習意欲の向上をめざし、「わかり合う授業」づくり ・確実な知識の習得をめざす授業づくり ・活用し、伸びを実感させる授業づくり ○心の教育の充実を図る。 ・体験的道德教育の推進と道德の授業の公開 ・UD教育の推進 ○特別支援教育の推進と充実 ・一人一人のニーズに応じた個別の指導と支援 ・校内支援体制の確立 ・専門機関、保護者との連携による、安心できる関係構築	学力については、一定の成果が上がっているが、二極化の傾向が見られる。個に応じた支援を充実し、基礎的な知識理解だけでなく、活用力を伸ばす取り組みを、全職員で探っていきいたい。校内研究、指導法改善の取組をベースに、学校全体として共通理解を取り組んだ。家庭の役割や連携も重要であるので、家庭の協力も様々な面で働きかけてきた。 また、学校だけでなく地域や社会体育(部活)や公民館、民生委員会、区長会、老人会等との密接な関係構築を行い、連携強化を図った。密接に連携し合うことで、家庭を支え、児童を支えていく、そうすることで地域が変わり、学校も変わると考えとりくんできた。その発信を学校から行った。 重要課題は、確かな学力の育成(活用力を中心にして)、心の教育の充実、特別支援教育の充実の3本柱であり、来年度も継続、強化したい。

5. 総括表				
領域	評価項目 (主に関わる担当・P)	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針 (校長・教頭・主幹・教務等)	・本年度重点目標の周知	教職員・保護者・児童への周知度を上げる。	・学校便りを発行する。(月に2回) ・PTA総会・学年PTAで周知する。 ・ホームページで周知する。 (週2回更新) ・全校朝会・学年朝会での周知する。
	教育課程 (校長・主幹・教務等)	・教育課程の完全実施とシラバスの公開	・月ごと、学期ごとに計画的に実施する。 ・教育活動の全体計画の把握をする。	・実施計画(授業時数・内容)の推進状況について月ごとに点検確認する。 ・PTA総会等でパンフレットによるシラバスの公開をする。
	教員の資質向上 (校長・教頭・研究主任)	・評価育成システムによる自己評価と自己管理 ・校内研究、研修による指導力の向上	・丁寧なヒアリングを実施する。 ・校内研究、研修を計画的に推進する。	・評価育成システム・キャリアアップ面談表の活用によるヒアリングを実施する。 (年間1人3回) ・全職員全員授業を行い、研究会を実施する。 ・講師招聘による専門的視点での研修会を実施する。(年間3回)
	保護者・地域との連携 (教頭・主幹・教務)	・授業参観・懇談会への参加 ・学校、学年、学級だよりの発行 ・学校アンケート、児童アンケートの実施	・年間を見通した参観や懇談の事前お知らせを充実する。 ・お便りを定期的に発行する。 ・学校評価活動の活用を行う。	・毎回まちコミによるメール配信を事前に行う。 ・学年・学級通信は、それぞれ月1回は発行する。 ・保護者、児童アンケートの実施・学校関係者評価の実施をし連携する。
	小中連携教育の推進 (教頭・主幹・教務)	・3部会(授業部・生徒指導部・教育相談部)による連携	・授業研究会で連携する。 ・連携会議による共有と課題に対する取組強化を行う。	・他校への授業研究会の案内、他校の授業研究会へ参加をする。(3回) ・夏季休業中に3部会を実施する。 ・長期休業中の連携指導計画を作成し、対策会議を開催する。(2回)
	危機管理 (教頭・安心安全P)	・危機意識の共有化 ・危機管理マニュアルの認識	・危機管理研修会を実施する。 ・それぞれの部署における危機意識の高揚とマニュアルの共有化を図る。	・職員会議ごとに危機意識を高める。 ・マニュアルの見直しをし意識化を図る。 (2回) ・専門家講師による研修会を実施する。 (1回) ・校内外ハザードマップを作成する。 (1学期中)

<先生方へ>

各Pでの学校評価計画表の作成ありがとうございました。5月20日(金)、全職員で検討をし共通理解をして、平成22年度の教育活動に当たりたいと思います。自分のP以外の評価項目について事前に見ておいてください。

領域	評価項目 (主に関わる担当・P)	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	確かな学力の育成 (やる気P)	・言語力の向上 ・算数の活用力の向上 ・学習意欲の向上	・言葉にこだわり、言葉を大切にする態度を育てる。 ・問題解決力や活用力を高める。 ・少人数、IT等の指導方法の改善の実施により、基礎的内容の定着と学習意欲の向上を目指す。	・国語タイムやチャレンジテストを実施し、漢字の定着率を85%以上とする。 ・音読集会を年6回実施する。 ・国語辞書を日々の活動の中で活用させる。 ・めあてを明確にとらえさせ、問題解決の過程を通して考える力を伸ばす。 ・各単元で、発展問題・活用問題に取り組ませる。 ・児童の実態と教科内容に応じて、指導方法についての計画を立てて、指導にあたる。 ・算数タイムやチャレンジテストを計画的に実施し、計算の定着率を85%以上とする。
	心の教育の充実 (笑顔P)	・一人一人が安心して、豊に学び合う学校生活の充実 ・道徳教育、人権教育の充実	・こころのノートを活用する。 ・道徳の授業参観を実施する。 ・いのちの大切さについての共通実践に取り組む。 ・共に生きる人権意識の啓発を図る。	・ふれあい道徳の時間として各クラス公開授業を実施する。(年1回) ・道徳実践活動としてのあいさつ運動を実施する。(週3回) ・平和、いのちの大切さ、について講話を実施する。(各1回) ・人権週間に合わせて全児童に人権作文や人権標語を作成させる。 ・人権集会を5月に1回実施する。 ・QUアンケートを活かした学級経営を実践する。
	健康・体力づくり (元気P)	・体力向上の推進 ・衛生習慣の確立	・児童の体づくりを推進する。 ・衛生習慣の確立	・外遊びの奨励(遊びの紹介)をする。 ・マラソン大会に向けたマラソンタイムの実施など、学校行事や季節に応じた取組の実施をする。 ・栄養士と連携した食育についての授業の実施する。(学年ごとに年1回) ・歯磨きビデオを見ながらの正しいブラッシングの実施をする。(毎日) ・手洗い、うがいを徹底(毎日)する。
	読書指導 (やる気P)	・朝読の充実 ・図書館の利用指導の充実	・静かな環境で、集中して朝読書を行う。 ・年間貸出冊数を、低学年で120冊・中学年で100冊、高学年で80冊読むようにする。	・市立図書館等と連携し、学級文庫や学年文庫の図書の実施を図る。 ・おすすめの本50冊を教師自ら読み、児童に推奨する。 ・教師によるお話し会や図書館祭りで、様々なジャンルの本を紹介し、読書の幅を広げる。 ・図書委員が中心になり、多読者の紹介や呼びかけを行い、読書への関心を高める。
	生徒指導 (安心・安全P)	・生徒指導の充実 ・基本的生活習慣の確立	・事故防止、非行防止に努める。 ・あいさつ、落ち着いた生活、掃除等、基本的生活習慣を身につけさせる。	・学校生活の決まりを全児童・家庭に配布し、周知徹底させる。 ・通年目標(あいさつ、無言掃除、廊下歩行)と、月毎の生活目標を設定し、重点的に指導する。
特定課題	小学校低学年の学習環境の改善充実(少人数学級指導) (やる気P)	・基本的学習習慣の確立(学び合う習慣) ・基本的生活習慣の確立(目力・友力・声力)	・相手を見て話を聞き、最後まではっきりと話すようにする。 ・学習道具や宿題を忘れさせない。	・聞き方名人、話し方名人のポイントを掲示し、活用する。 ・「家庭学習あいさつ会」の確実な点検と指導を毎日行う。 ・基本的な学習習慣・生活習慣の手引きを作成し、家庭に配布する。 ・スクールミーティング、保護者アンケートを実施する。(各3回)
	魅力ある学校づくり推進事業 (開かれた学校P)	・地域連携協議会の推進 ・米作り等の体験活動の重視 ・学級満足度の向上	・地域連携協議会との連携を強化する。 ・地域に目を向けた体験学習を行う。 ・QUアンケートにおける学級生活満足群について全国平均を上回る。	・地域・関係機関との連携を図る。 ・地域連携協議会を年3回を開催する。 ・各地区の対話集会を年1回開催する。 ・民生児童委員会を年1回、学校評議員会を年3回開催し連携を図る。 ・生活科・総合的な学習の時間を活用し、体験活動に取り組ませる。(米作り、地域の産業・歴史等の学習、学習発表会の開催) ・学級活動、道徳の時間を活用し、仲間作りにつながるエンカウンターを実施する。 ・学級や児童の実態を把握し、全職員で共通理解して取り組む。